

はじめに

近年におけるわが国鉄鋼生産の伸展は誠にめざましいものがあり、粗鋼生産量は昭和18年の550万tより同35年度は実に2,300万tに達する見透しで、世界の鉄鋼生産国の第4位にランクされるまでになつております。

その陰には、昭和23年通商産業省、日本鉄鋼協会ならびに日本鉄鋼連盟の強力な援助の下に鉄鋼技術共同研究会が発足し、鋼材部会はその一部門として分科会を組織し今日まで活動してまいりましたが、各分科会の研究努力が日本鉄鋼業界の技術の発展に寄与した偉大な功績を見のがすことが出来ません。

現在鋼材部会には圧延理論、線材、中小形、帯鋼、鋼管、薄板、厚板、分塊の8分科会があり、数多くの鉄鋼会社の協力とその推薦による委員の努力により、今日にいたる長期間研究、討議が続けられてまいりました。このたび線材分科会において線材の生産技術の研究に、これまでに見られない完全にして貴重な参考資料を編集し出版することになりましたが、本篇の内容は今日および将来の鉄鋼技術の向上のために誠に有意義な報告書と申さればなりません。終りに本篇を編集出版に当りまして、線材分科会各委員ならびに多大の協力を下さいました関係各社のご厚意に深く感謝の意を表する次第であります。

昭和36年11月

鉄鋼技術共同研究会

鋼材部会長 平 世 将 一